

第6学年社会科学学習指導案

日 時 平成26年11月7日（金）公開授業Ⅱ

対 象 6年1組 男21名 女18名 計39名

指導者 長谷川 幸代

1 単元名 戦争から平和へ「戦争と人々の暮らし」

2 単元の目標

第6学年目標

(1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。

アジア・太平洋に広がって行われた戦争について、戦争の背景や経緯、その当時の国民の生活の様子や戦場となった地域の被害の状況について理解することができるようにする。

3 単元の評価規準

観 点	B：おおむね満足できる
社会的事象への関心・意欲・態度	戦争の経緯や様子、それが国内外の人々に及ぼした影響について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
社会的な思考・判断・表現	国民生活への影響や戦場になった地域の人々への被害の様子など、調べたことについて関連付けて考え、適切に表現している。
観察・資料活用能力	聞き取りや各種資料を効果的に活用し、戦争の経緯や国内外に及ぼした影響について調べている。
社会的事象についての知識・理解	戦争の経緯や被害、国内外の人々の暮らしに及ぼした影響について理解している。

4 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、歴史学習に積極的に興味を示す児童もいるが、全体的に消極的であり、学習に対する関心は個人差が大きく感じられる。授業では、資料から気付いたことを見付けたり、他の時代と比べたりすることはよくできるが、それらからより広い視野で意味を考えたりやそのことについての自分の考えをもったりすることを苦手とする児童が多い。また歴史に興味をもてるように、人物カルタを休み時間に使ったり、時代に合わせた紙芝居を用いたりして関心が高まるようになってきた。また、調べ学習を行い、誰もが参加できる授業を心がけてきた。

そこで本単元では、「戦争と平和」に対する認識を深めるために、一人一人が課題意識を持ち、調べ学習を通して、平和の尊さ、平和な世の中にしていくために大切なことは何かを考えていきたい。

(2) 教材について

本教材は、昭和時代における主なできごとのうち、日中戦争、我が国にかかわる第二次世界大戦などの歴史的な事象を取り上げる。戦争の経過、戦時中の人々の生活の様子を調べることを通して、

国民や中国をはじめとする諸国に大きな影響や損害与えた戦争の実態を学習していく。そして、当時の子どもたちの姿に心を寄せながら、人々が願った世の中の姿について考え、戦後学習へとつなげていく。

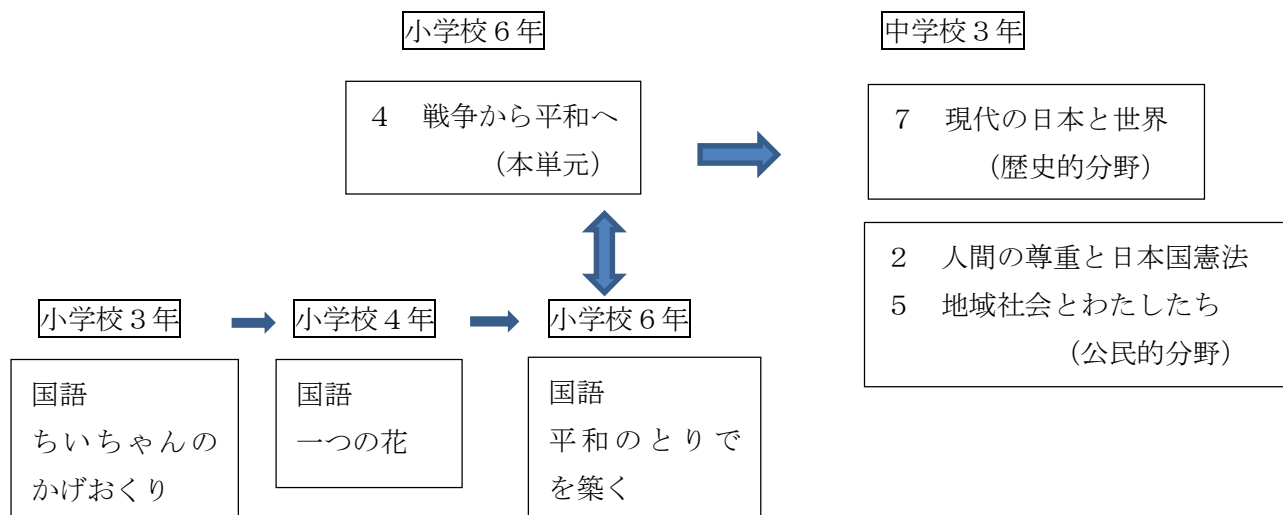
ここでは、単に過去のことを知ればよいのではなく、学習してきたことをもとに現代に生きる自分自身と対峙し考えることが大切であると考えます。

(3) 指導について

満州事変から太平洋戦争までの15年間の戦争で、日本人だけでなく、アジアの国々を含めて多くの人の命が奪われ、苦しみ続けた。この悲惨極まりない戦争について具体的な事例や写真等の資料をもとに実態に迫りたい。そして戦争は、ごく当たり前ごく普通の生活を奪ってしまうことを考えさせることで、改めて平和であることの幸せを実感させたい。

指導にあたっては、自分で課題や疑問をしっかりともち、調べたり学習に臨んだりすることを意識し学習を進めたい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（9時間扱い）

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 中国との戦争が始まる | 1時間 |
| (2) アジア・太平洋に広がる戦争 | 1時間 |
| (3) 戦争と国民生活の変化 | 1時間 |
| (4) 子どもたちと戦争 | 3時間 |
- ・子どもたちの暮らしの様子について、教科書の資料をもとに関心をもつ。
 - ・子どもたちの衣・食・住について調べ学習を行う。
 - ・調べたことをもとに発表し、戦争中の子どもたちの暮らしについてまとめる。(本時3/3)
- | | |
|--------------------|-----|
| (5) おそいかかる空襲 | 1時間 |
| (6) 沖縄・広島・長崎、そして敗戦 | 1時間 |
| 学習を振り返り、カードをまとめる | 1時間 |

7 本時について

(1) 目標

戦争中の子どもたちの暮らしの様子について調べたことを発表しあい、当時の子どもたちの思いや願いについて考えることができる。(社会的な思考・判断・表現)

(2) 「自分の考えをもつ^自」「互いの考えを交流する^交」「互いの考えのよさに気づく^気」場面

本時は、自分が事前に調べた事柄について、班の中で考えを交流する形で授業を展開していく。初めに班で調べてきたことを発表し、次に全体で自分たちの調べたことを交流することにより、一人一人の疑問や予想を解決していく。また戦争中の子どもたちの暮らしについて考えたことを発表し合うことにより、お互いの考えの良さに気付かせたい。そして、最後に戦争中の子どもたちの暮らしについて自分なりの考えをもたせたい。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	場面	○指導上の留意点●評価の観点 (方法)
導 入 5 分	1 戦時中の様子の写真から、前時を想起する。 2 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 戦争中の子どもたちは、どんな暮らしをしていたのだろう。 </div>		○指導上の留意点●評価の観点 (方法) ○今の暮らしと違うところを話し合ったことを思い出す。 ○班毎に衣・食・住の中から各自1つ選択して調べ学習を行ったことを確認する。 ○みんなの発表を通して、解決していくことを伝える。
展 開 32 分	3 学習課題について予想する。 ・食べ物があまりなかった。 ・住むところもなかったのではないか。 ・着るものは洗えなかった。穴が開いていた。 4 自分たちで調べたことを班で発表する。 ・戦争中の衣・食・住の様子について、調べたことを、キャッチコピーと絵で表現する。 5 班で交流したことを全体で出し合い、暮らしの様子についてまとめる。 ・班の発表で分かったことを、全体に伝える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">自</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">交</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">気</div>	○自分が調べたこと以外の暮らしについて、予想をもたせる。 ○班の中で発表を聞き、解決できたこととできなかったことをまとめる。 ○班での発表をもとに、自分が新たに分かったことを発表させ、全体でまとめる。 ○児童の発表を通して、戦争中の衣・食・住は、物が足りなく苦労したことをまとめる。

	6 学童疎開の資料をもとに、話し合いをする。 ・写真や作文を提示し、当時の子どもたちの心情を考える。		○親元を離れ、小さい子供たちが集団生活で頑張る、寂しさやつらさに迫る。
終末8分	7 本時の学習を振り返り、当時の子どもたちの暮らしについて自分の考えをまとめる。 (1) 学習課題について (2) 学習課題をまとめた後に当時の子どもたちの暮らしについて自分なりの考えをまとめる。	自	○戦争中の子どもたちは、物のない苦労だけではなく大きな心の苦労を背負っていたことを実感させたい。そのことで当時の子どもたちの暮らしに対して、自分なりの考えをもたせたい。 ●当時の子どもたちの生活や思い・願いにふれ、自分なりの考えをもっている。 (ノート)

(4) 板書計画

戦争中の子どもたちは、どんな暮らしをしていたのだろう。

(予 想)

食べる物もあまりなかったと思う。
家は壊され、住むところがなかったのではないか。
着るものは、洗えなかった。穴が開いていた。

(衣・食・住に関する写真)

(子供たちの調べたキャッチコピーと絵)

物のない苦労

(疎開生活)

疎開生活の
写真

疎開児童の
書いた作文

心の苦労

(まとめ)

(例) 戦争中の子どもたちは、物のない苦労だけでなく大きな心の苦労を背負った。